

# 優良賞

助け合いとは何か

真鶴町立真鶴中学校三年

青木 拓夢

私は助け合いとは自分の感じていない時にも助けたり、助けられたりしていると思います。

例えば授業中、私たちは楽しく授業を受けることができます。それは同じクラスの友達や先生が楽しめる環境を作ってくれているからです。このような小さなことでも明るい雰囲気を作ったり、わかりやすく授業を進めたりとおたがいに助け合っていると思います。もつと考えて見ると先生のお給料や学校の備品は親や生きている人たちみんなが払っている税金でまかなわれています。

そこでも私たちは自分たちが使う税金で払われている物に助けられています。このように思えば世の中のたくさんの物や人がだれかの「力」に助けられていると思います。

お年寄りが困っていたらフォローしてあげる、電車で席をゆずることだけが助け合いではありません。

そしてそれが善意を意識して助けたことが相手にとって悪意に変わってしまうことがあります。

例えばお年寄りが荷物を持って階段をのぼろうとしているとき私たちは善意から荷物を持ってあげようと思うことがあつたとします。しかし、お年寄りから見たらそれぐらい自分でできると思ったり、自分は弱々しく見られているのかなどと感じたりすると思います。

このように視点を変えて見てみると悪意とまでは言わずとも嫌な気持ちになることがあるのです。

だから案外意識して助け合いをするというよりもその場、その場で人が助けを求めていたら助けてあげればよいと思います。

助けを求めている人を探すことに意識を向けるということがあるかもしれませんが、世の中の全員が助けを求めていると思います。大きな悩みやけがでは無く、もつと小さなことから考えたらこの漢字はなんて書けばよいのだろうとか朝ごはん何にしようか決められない、探していけばいくらでもあります。

しかし、私は時に放っておくことも助け合いだと思います。

ふとした悩みにいちいち答えられないということではありません。たしかに全ての悩みにこたえることはできませんが、自分でその悩みを自己解決できるようにすることが大切だと思います。アドバイスをしたりその人の行動を助けるだけでなくまずは自分でもう一度やらせて解決させた方が良いと考えます。それに、その人に自分で解決させることができればその人に自信がつくし、解決できたことが経験として残ります。

それはその人の知恵になり、次また悩んだり、困っている人がいたりしてもそれを解決することにつながります。

最後に私たちが悩んだ時や困ったとき助けしてくれる人は必ずいると思います。しかし、その人の行動によって私たちの行動は大いに変わります。だから人を助けようと行動したり助けてもらおうときはその行動をいろんな視点に立って考えるべきだと思います。